札幌市北３条広場から札幌三井 JP ビルディングを見る

札幌三井ＪＰビルディング・札幌市北３条広場

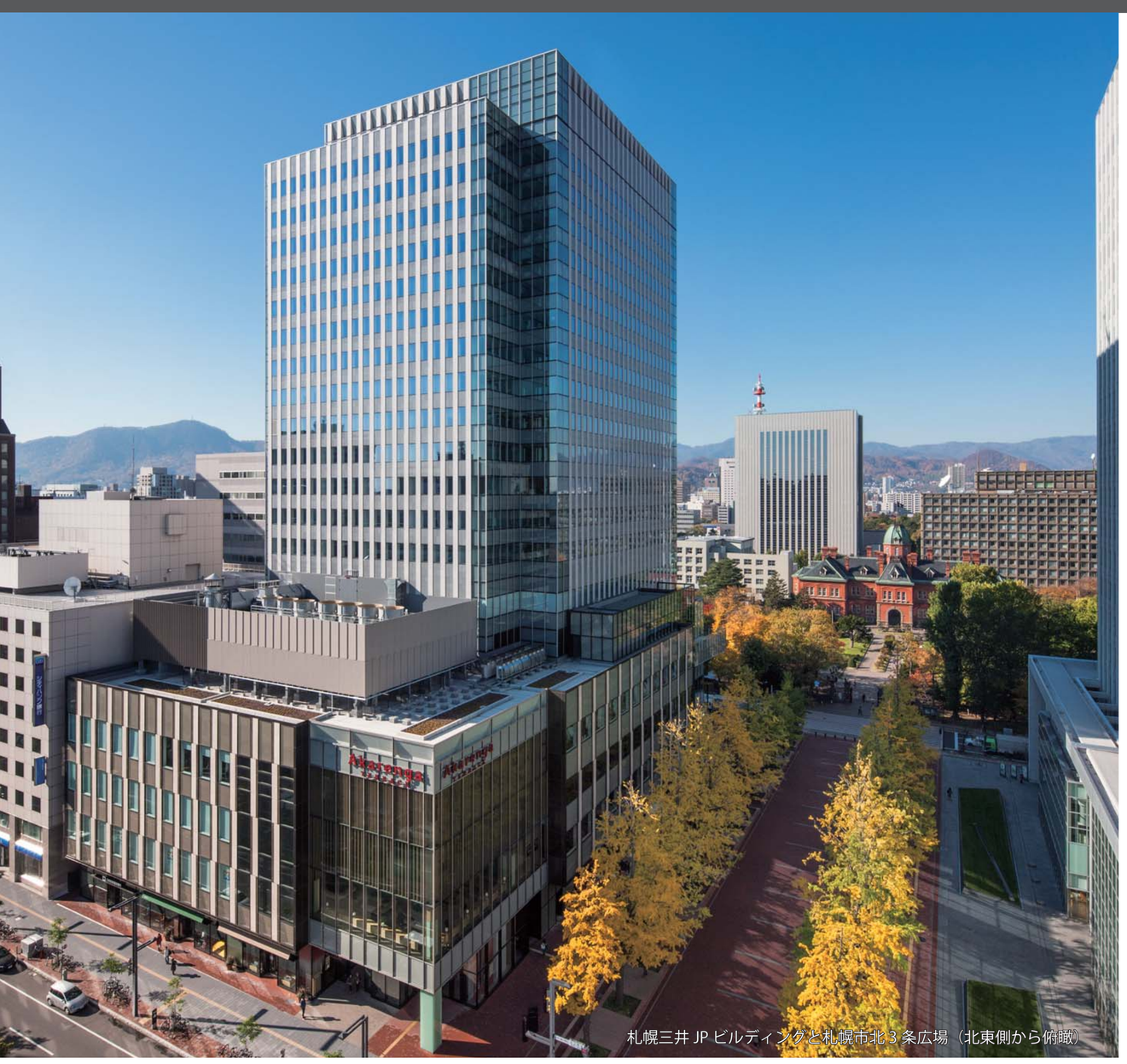
札幌都心の新名所づくりをテーマとした都市再生プロジェクト

第 14 回環境・設備デザイン賞
Ⅲ　環境デザイン部門

三井不動産
日本郵便
札幌市
日本設計
鹿島建設
アーキテクトシップ
スズキマコトアトリエ
スタジオタクシミズ
アースケイプ

道庁赤れんが庁舎前から延びる文化歴史的な「うけつぎの軸」と、札幌駅前の「にぎわいの軸」の交差部に位置し、札幌都心の新名所づくりをテーマとした都市再生プロジェクトである。事業者・市・地元関係者の各々の思いを共有し、札幌三井 JP ビルディング・札幌市北３条広場（アカプラ）のほか、DHC 新設、地下歩行空間（チ・カ・ホ）の階段取込みと全面接続などを統合整備した。商業低層部の外装やオーニング、オープンカフェのにぎわい、チ・カ・ホからのつながり、アトリウムテラスや眺望テラス、店舗、オフィスなどから見える道庁赤れんが庁舎や保存したイチョウ・木塊レンガなど周辺環境とつながりを通し、ひと・まちがトータルに発展することを意図した。

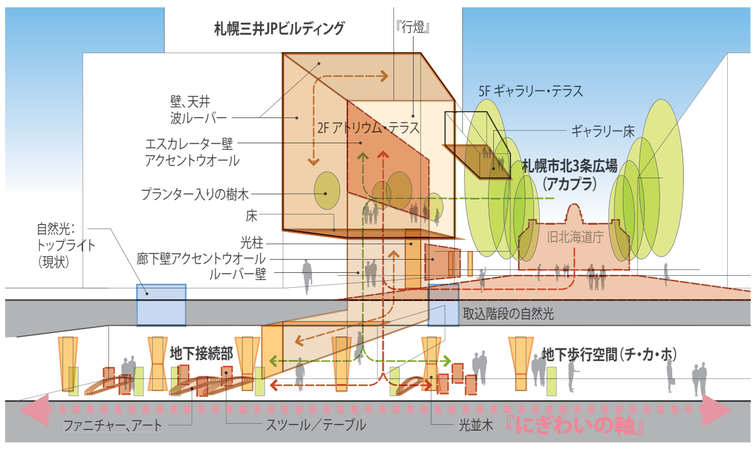
This project is located at the intersection of two major thoroughfares in central Sapporo,with many historic landmarks nearby. The urban renewal project was implemented under the theme of creating a new focal point in the heart of Hokkaido’s capital. The developer,city, and local stakeholders shared ideas so that several projects could be integrated into a larger plan. Lower level awnings, street cafés, an atrium, a viewing terrace, stores, and seamless flow from the underground mall contribute to the theme of connecting with the area’s existing features.



札幌三井 JP ビルディングと札幌市北３条広場（北東側から俯瞰）

アトリウムテラスからイチョウを見る

街角の行燈としてのアトリウム

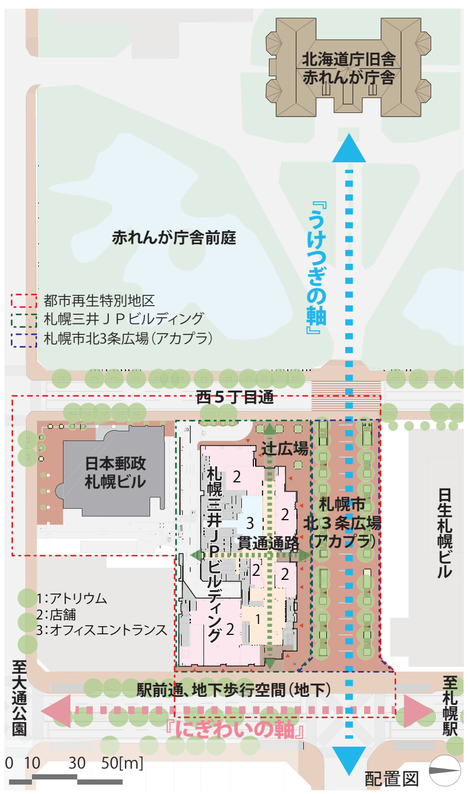


■札幌三井ＪＰビルディング

札幌市北３条広場（アカプラ）と一体的に整備し、以下の様々な公共的空間を通じ、周辺都市環境・地域文化に貢献している。　①アトリウムテラス：緑あふれ自由にくつろげる場を快適な屋内環境として提供。②建物内を東西・南北に貫通する公共通路。③駅前通地下歩行空間（チ･カ･ホ）と全面接続、光柱やベンチ、開放的な入口により連続性を高め、都市の回遊性を誘発。④立体道路制度活用により道路（階段とエレベータ）を取込み、歩道の広がりを確保。⑤道庁赤れんが庁舎と広場を望む眺望ギャラリーを設置し広場と共に様々なイベントを開催。⑥辻広場とオープンカフェ：賑わいを高め合い、誰もが気軽に憩える空間。⑦地冷プラント：周辺建物や地下歩行空間にもエネルギーを供給し地域の省エネルギーに貢献している。

■札幌市北３条広場（アカプラ）

道庁赤れんが庁舎から東側の市道約 100m を札幌市北３条広場として整備、市民や国内外の観光客が憩い、さまざまな活動が行われる新たな場所が生まれた。広場は、都市再生特別地区制度を活用し、札幌三井ＪＰビルの公共貢献として民間事業者により整備された。道庁赤れんが庁舎への象徴的なビスタをうけつぎ、道産レンガを敷設し、より北海道らしい個性と風格のある風景を創出している。更に土木遺産である「木塊舗装」「銀杏並木」の保全と継承を通し、観光資源の質的向上を目指している。



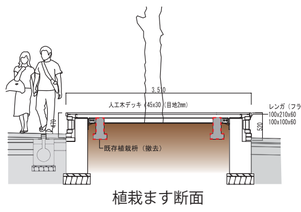
憩いの場としてのベンチ

イベント：フラワーカーペット

アカプラから赤れんが庁舎を見る

アカプラに面したオープンカフェ

アカプラの夜景



植栽ます断面

植栽ますの連続化によるイチョウの保護

■土木遺産に指定されたイチョウ並木の保存・活用

樹齢100年超のイチョウは、根系調査の結果、地中深く伸びる太根が多数認められるものの、過去の盛土（二重根の発生）や水分・日照の変化等で生育環境が悪化していた。植栽ますの連続化・拡幅、土壌乾燥防止効果のある浅根地被植栽等により改善を図った。植栽枡にベンチ機能を持たせ、間隙部にはイベント対応設備（給排水・電気）を収めたトレンチを埋設し、憩いと賑わいを生み出す機能を高めている。

貫通通路に面したオフィスエントランス

眺望テラスから赤れんが庁舎を望む

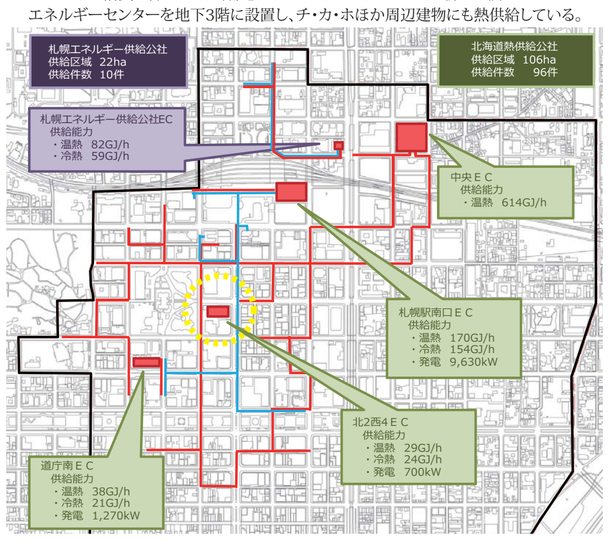
回遊性の核となるアトリウム

チ・カ・ホに開放し回遊性を高める

チ・カ・ホ接続部の光柱とベンチ

■エネルギーネットワーク

エネルギー消費を抑えるため、都心のエネルギーネットワークの新しい核となるエネルギーセンターを地下3階に設置し、チ･カ･ホほか周辺建物にも熱供給している。



□評価項目		□特に重視したデザインの視点	□評価項目に対する設計者のデザイン意図（従前のデザインに比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください。）	□自己評価欄			
				非常	優れている	卓越している	不回
				0	1	2	3
A.感性軸（造形） Form	01審美性	☆	超百貨店が庁舎への象徴的なビスタをうけつぎ、イチョウ並木を保存し、道産レンガをベンチや床仕上げに用いることで、道庁と の一体感を より感じられる。 今までにない、より上品過ぎない新性と風格のある風景を創出。			○	2
	02調和性	☆	WAMM&NATURE のコンセプトを踏まえ、都会と大自然が調和を低層部外観、アトリウムテラスや地下接続部に「植栽、BIZCRX、LIGHT、WOOD」の素材が用一感ある調和と洗練性を兼ね備えた、造形的な環境を創出。			○	2
	03独創性	☆	超高さに制限されてきた低層部を都市再生特別地区制度を活用し、札幌三井ＪＰビルの公共貢献として民間事業者により都市広場を整備、オープンカフェ、ショップ、ギャラリーを一体的に整備されたレームスペースがガラス覆で一体となった独創的な広場を創出。			○	2
	04象徴性	☆	超百貨店が庁舎への「うけつぎの軸」を之字型動的に見せるため、低層部スケルトンを横張りとなだらかで丸屋、ウインターガーデンを介した象徴のアトリウムは、行灯のように外部からのアプローチを象徴的にうけるランドマークを実現。			○	2
	05方位度	☆	開放100%を超える高さを有した都市赤れんが庁舎との関係性を広場からの視線で、対応人々の思いの関係のスケールや各種イベントに対応した開放した設備類、札幌三井ＪＰビルの一体的な外構などの相乗効果により空間度の高いデザインを獲得。			○	2
B.機能軸（技術） Technology	06機能性	☆	広場、アトリウム、周遊通路、地下接続、辻広場、オープンカフェ、眺望ギャラリーを 2 種々な公共空間を立体的に配置することで、都市レベルでの回遊性を確保し、周辺都市環境・地域文化などの機能性向上に貢献。			○	2
	07効率性	☆	オフィス部はＰＡＬ容積 67%、ＥＲＥ47%で設備システムの効率化を図っている。アトリウムは切妻屋根で採光により効率的で快適な空間を提供。地下3階の地冷プラントは周辺建物や地下歩行空間にもエネルギーを供給し地域の省エネルギーに貢献。			○	2
	08利便性	☆	車両・歩行者動線を分離、駅前通地下歩行空間と全面接続、階段のみならずエスカレーター、エレベーターを設置し、立体道路制度活用により道路（階段とエレベータ）を取込み、歩道の広がりを確保。様々な公共空間を通じ利便性の高い施設を計画。			○	2
	09安全性	☆	既存・本館対策として低層部を分割し、分棟に新に配置。屋上ヘリポートの設置は国土交通省通達、外壁は性ルの中央にパラペーターを配置することで、ガラスの飛散を減らし、安全性に配慮。入居テナントのＢＣＰ支援（自家発電2時間）、防災センターの対応を充実させ、安全性を高める。			○	2
	10光導性	☆	都市地の厳しい環境に対し、安全性に配慮した外装、商業のライトアップでオープンカフェなどがさわ感演出、アトリウムの快適性など機能性とデザイン性を向上した照明の新たなデザインの方向性を提示。			○	2
C.社会軸（環境） Environment	11環境負荷	☆	建物形状を単純化・柔軟な方向とし日射負荷低減、縦ルーバット設置による間に日射遮断、断熱性向上により、空調負荷を低減、事務室のオールＬＥＤ照明及び調光制御、中間階及び冬季の冷房に も外気冷房の導入、雨水・井水・空調ドレンの利用。			○	2
	12資源消費	☆	地下駐車場やアトリウム屋根に高効率太陽光発電パネルを中間階屋根を利用、広場や外構の緑やベンチ用材料、地域に根差した材等有効を意識した素材の選択。		○		1
	13地域環境性	☆	北海道開拓使からの地域の歴史をうけつぎ、地域文化の中心としての再生を目指し、本地域に、商業者本今有効で 自 然 を 共 存 し 、 地 域 文 化 の 中 心 と し て 、 広 場 を 通 じ 、 地 域 の 活 性 化 に 貢 献 。			○	2
	14ユニバ性	☆	都市周辺の地域の歴史をうけつぎ、地域文化の中心としての再生を目指し、本地域に、商業者本今有効で自 然 を 共 存 し 、 地 域 の 活 性 化 に 貢 献 。			○	2
	15先進性	☆	オフィス・商業利用者・観光客などの高齢者・障害者を含む幅広いユーザーに対し、認識しやすい職域・動線を計画、適切なサイン を含めて エ コ ロ ー ド ル 性 に 配 慮 。 地 下 歩 行 空 間 か ら の ア プ ロ ー チ 、 外 構 ビ ー ル ー ディングなど歩道空間の快適性アクセスを確保。			○	2
D.経済軸（LCC） Life Cycle Cost	16イニシャコスト	☆	歩行者・車両・自転車の利用状況より空間を整理し、商業用外周は「テーラスストンガーの一体化と工期に関する検討。1 期施工を先行する 2 段打ちは の採用を実施設計段階から検討。地下・地上躯体の同時施工による工期短縮を実現。	○			1
	17ランニングコスト	☆	ＥＶ・階段部のドラフトによるエネルギーロスの減減を検討。外装の建物熱負荷低減、設備システムの効率化、LED照明等 ゴの 低 ネ ル ギ ー 設 備 採 用 、 節 水 型 の 衛 生 器 具 、 雨 水 ・ 井 水 ・ 空 調 ド レ ン の 利 用 な ど 、 ラ ン ニ ン グ コ ス ト 低 減 に 配 慮 。			○	2
	18維持管理	☆	広場・外構部にはイグラーロッテング仮家のある通常レンガを採用、維持管理に配慮、建物共用部の床には、スパイクに対応した型材を素材（石ｔタイルなど）を採用、外周は材にコンドラを設置、汚れのかさない外観により清掃性、清管対策に配慮。			○	2
	19耐久性	☆	外装部材は、耐久性のあるプレキャストコンクリート打ち込み設計を採用、耐久性の高い配管、配線材料を採用、断熱材は、硬質ウレタンフォームにて ドレイン等はセーター設置し、耐久性を確保。外構では、凍結深度は工に基礎・配管を設計、耐久性を確保した。			○	2
	20ＬＣＣ	☆	超高層ビルにおいて超機システムの建設期及び維持管理を通じ高度なエネルギーコストを削減し、年間エネルギー消費量は標準をサポート。ランニングコストを抑減、維持管理のしやすい設備、高耐久への配慮を図、長期的にＬＣＣを削減。			○	2

■建物概要

名　称：札幌三井JPビルディング　札幌市北3条広場
所在地：札幌市中央区北2条西4丁目及び北3条西4丁目
用　途：都市空間・広場・地域冷暖房
完成年：2014年8月
規　模：地上20階、地下3階、延べ面積68,192㎡